特別活動

特別活動においては、活動全体を通して、自治的能力や積極的に社会参画する力を育てることを重視し、学級や学校の課題を見いだし、話し合って合意形成したり、役割分担して協力したりするなどして解決する活動の充実を図ることが大切です。

◆　「内容のまとまり」の考え方

特別活動における「内容のまとまり」は、学習指導要領の内容に基づき、次のように示されています。

○　学級活動：
(1)　学級や学校における生活づくりへの参画
(2)　日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
(3)　一人一人のキャリア形成と自己実現
○　生徒会活動
○　学校行事：
(1)　儀式的行事、(2)　文化的行事、
(3)　健康安全・体育的行事、
(4)　旅行・集団宿泊的行事、
(5)　勤労生産・奉仕的行事

◆　内容のまとまりごとの評価規準の作成

①学習指導要領の「特別活動の目標」と自校の実態を踏まえ、「改善等通知」の例示を参考に、特別活動の「評価の観点」とその趣旨を設定します。

※「改善等通知」の例示は、巻末の「学習評価等に関する参考資料のリンク集」に掲載している「改善等通知」（別紙4 31ページ）を参照してください。

②学習指導要領の「各活動・学校行事の目標」及び学習指導要領解説で例示されている「各活動・学校行事における育成を目指す資質・能力」を参考に、各学校において育成を目指す資質・能力を重点化して設定します。

③「観点ごとのポイント」を踏まえ、「内容のまとまりごとの評価規準」を作成します。

○「知識・技能」のポイント
・話合いや実践活動における意義の理解や基本的な知識・技能の習得として捉え、評価規準を作成します。
・文末を「～を理解している、～を身に付けている」とします。

○「思考・判断・表現」のポイント
・話合いや実践活動における、習得した基本的な知識・技能を活用して課題を解決することと捉え、評価規準を作成します。
・文末を「～している」とします。

○「主体的に学習に取り組む態度」のポイント
・自己のよさや可能性を発揮しながら、主体的に取り組もうとする態度として捉え、評価規準を作成します。
・文末を「～しようとしている」とします。

【「学級活動(1)」の内容のまとまりごとの評価規準（例)】

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
学級や学校の生活上の諸問題を話し合って解決することや他者と協働して取り組むことの大切さを理解している。合意形成の手順や活動の方法を身に付けている。	学級や学校の生活をよりよくするための課題を見いだしている。課題解決に向け、話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践している。	学級や学校における人間関係を形成し、見通しをもったり振り返ったりしながら、他者と協働して日常生活の向上を図ろうとしている。

◆　特別活動における学習評価の工夫

◇多面的・総合的な評価の工夫

特別活動においては、生徒が自己の活動を振り返り、新たな目標や課題がもてるよう、評価を進めるため、活動の結果だけでなく、活動の過程における生徒の努力や意欲などを積極的に認めたり、生徒のよさを多面的・総合的に評価したりすることが大切です。

生徒一人一人を評価する方法としては、教師による観察が中心となりますが、チェックリストや生徒自身の各種記録の活用など、評価方法の特質を生かして評価するようにします。

特に、生徒が「活動に見通しをもって取り組み、活動を振り返って次の課題解決につなげたり、改善したりする」等、自主的、実践的に取り組むことができるようにするために、生徒の学習活動として、自己評価や相互評価を行うことも多いことから、観察による教師の評価と併せて、生徒自身による評価を参考にすることも考えられます。

また、生徒一人一人のよさや可能性を生かし伸ばす点から、好ましい情報や資料は、随時、当該生徒に伝えたり、学級や学年、学校全体に紹介したりすることが考えられます。

◇評価機会の工夫

特別活動は、活動の積み重ねにより年間を通して生徒の資質・能力の育成を図るものであることから、すべての評価の観点について、事前・本時・事後の一連の学習過程の中で評価できるようにしたり、各活動・学校行事における顕著な事項は補助簿を活用して記録したりしておき、一定期間に実施した活動や学校行事を評価規準に基づき、まとめて評価するなど、効果的で効率的な評価となるよう配慮する必要があります。

◆　学習評価に関する事例

1　議題
「よりよい学級生活をつくろう」

2　内容のまとまり
第１学年　「学級活動『(1)学級や学校における生活づくりへの参画』」

3　目標
学級開きにあたり、よりよい学級生活をつくるための話合い活動を通じて、学級目標及び個人の一学期の目標を考える。

4　評価規準
※前ページ【「学級活動「(1)」の内容のまとまりごとの評価規準（例)】を参照

5　指導と評価の計画
【一連の活動と評価】

時間	ねらい・学習活動	目指す生徒の姿		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的態度
学校行事　入学式後	「学級開き」 ○ねらい ・自分の実態を知る。 ○活動 ・小学校の「キャリア・パスポート」から、今の自分ができていることとできていないことをまとめる。		自分の実態と担任の思いを知り、学級や学校生活をよりよくするための課題を見いだしている。	
朝の会及び帰りの会	「自分の考える学級目標」 ○ねらい ・自分の実態と担任の思いから自分なりに学級目標を考える。 ○活動（個人） ・自分なりに学級目標案を考える。 ・「『よりよい学級生活をつくろう』シート」(以下ワークシート)を活用する。			
本時	「よりよい集団をつくろう」 ○ねらい ・学級目標を決める。 ○活動 ・個人で考えてきた学級目標をグループで出し合う。 ・グループの考えをまとめ、学級目標グループ案を決める。 ・学級全体で話し合い、学級目標を決める。 ・ワークシートを活用する。	互いの意見や可能性を生かし合うことの大切さを理解し、話合い活動の仕方を身に付けている。	異なる意見から共通点を見いだし合意形成に向け(個人として)取り組んでいる。	
朝の会及び帰りの会	「よりよい生活をつくろう」 ○ねらい ・学級目標から個人の一学期の目標を考える。 ○活動 ・学級目標を確認する。 ・自分の一学期の目標、取組を考える。			学級目標を踏まえて、個人の一学期の目標に取り組もうとしている。

【POINT】
「思考・判断・表現」の評価については、習得した基本的な知識・技能を活用して、学級や学校生活をよりよくするための課題を見いだしたり、課題解決に向け、話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図って、協働して実践したりする姿を評価します。

【POINT】
「知識・技能」の評価については、話し合って解決することや他者と協働して取り組むことの大切さを理解しているかや、合意形成の手順や活動の方法を身に付けているかなどを評価します。

【POINT】
「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、自己のよさや可能性を発揮しながら、学級や学校における人間関係を形成し、見通しをもったり振り返ったりしながら、他者と協働して日常生活の向上を図ろうとしている姿を評価します。

※これ以降、教科学習、学期の始めや終わり、学校行事や学級生活において、学級目標が意識されているかの視点で生徒を見取っていく。

【本時の指導計画】

	生徒の活動	目指す生徒の姿 【観点】〈評価方法〉
導入	○ワークシート「よりよい学級生活をつくろう」を活用して自分が宿題で考えてきた学級目標を確認する。	
展開	○「よりよい学級生活をつくろう」を活用してグループで意見を出し合い、まとめる。 ・自分が考えた学級目標を発表する。 ・発表している人の考えを聞き、ポイントをメモする。 ・グループとしての学級目標案を考える。 ○全員で学級目標を決める。 ・各班で決めた学級目標案を発表する。 ・「よりよい学級生活をつくろう」を活用して、発表している人の考えを聞き、ポイントをメモする。 ・学級委員が調整役を果たしながら合意形成に向けて練り合う。 ・折り合いを付け、学級目標を全員で合意形成する。 学級委員が学級活動を進めているため、本時の展開の中で教師が全生徒を観察により見取ることができる時間である。そこで、合意形成の視点での見取り表を用いて生徒の評価を行う。 ・合意形成した学級目標を確認する。 「１年○組の学級目標は～～としていいですか。」	○互いの意見や可能性を生かし合った話合い活動の仕方を身に付けている。 【知識・技能】 〈ワークシート〉 ○異なる意見から共通点を見いだし合意形成に向け（個人として）取り組んでいる。 【思考・判断・表現】 〈ワークシート、観察〉
終末	○実践に向けて ・担任からの合意形成した過程や全員で決めた学級目標に対する思いを聞く。 ○学級目標を実現するために（予告） 「次の活動は、学級目標を踏まえて個人の１学期の目標を決めてもらいます。」（担任） ○自己評価表を切り離し、担任に提出する。	※生徒の思いを大切にしながら、学校・学級として育てたい資質・能力についてもコメントする。

【POINT】
生徒一人一人の話合い活動の状況を１単位時間の授業ですべて見取ることは困難であることから、評価方法の工夫として、ワークシートの記述からの見取りを行います。しかし、記述の分析だけでは、十分ではない部分もあることから、それを補うため、実際の生徒同士の話合い活動の場での見取りを参考にすることも考えられます。

【POINT】
主たる活動の場において「どんな発言ができたか」→「意見をどう調整したか」→「意見に対してどう折り合いを付けたか」といった視点で、話合い活動における生徒の発言を記録し、評価の資料とします。

【評価用のワークシート例】

「よりよい学級生活をつくろう」シート

（ ）組（ ）番 氏名（ ）

1．グループで話し合って学級目標案を考えよう

自分が考えた学級目標案	グループの他の人が考えた学級目標案
メモ（意見を聞いて気になったこと、考えたこと）	

＜※学級目標を決める過程で他者の意見から気付いたこと＞

最後まで「時間を決めない」という考えにこだわっていたＡさんの意見も、学級目標に入れられてよかった。話し合いで意見を言わなかったＢ子さんに聞いたら、「自分もそう思っていた」と言ってくれたので、安心した。これからお互いの可能性を生かし合って楽しい学級にしていくことが大切だと思う。

【POINT】
「知識・技能」について、記述内容から、自分の現状を踏まえた案を考えていることや、互いの意見や可能性を生かし合った話合い活動の仕方を身に付けていることを見取ります。

異なる意見への配慮を見取ることができます。

協働して向上しようとしていることを見取ることができます。

【POINT】
「思考・判断・表現」について、記述内容から、異なる意見から共通点を見いだし合意形成に向け（個人として）取り組んでいることを見取ります。